

レファレンス・トピック

2018年7月31日(火)に、火星が地球に大接近するそうです。原因は火星の軌道が「真円」ではなく「楕円」だから、とのこと。以下に関連する資料を紹介します。

※【 】は当館請求記号

■『天文年鑑 2018年版』(天文年鑑編集委員会/編 誠文堂新光社 2017.11)【440.5/2N】貸出不可

p.135の図「2018地球と火星の位置」で太陽・地球・火星の軌道、現象が「最近」になるのは「7月31日16時50分」、p.136の図「火星の視直径の変化(2018-2038年)」で火星の軌道に合わせて大きく見えたり小さく見えたりする変化の様子や、月の南で観察できることがわかります。今年の大接近は15年ぶりとのこと。

■『理科年表 第91冊(平成30年)』(国立天文台/編 丸善出版 2017.11)【403.6/4N】貸出不可

p.76に火星と地球が接近する会合周期は約780日(2年2か月)、また「小接近」についての説明と、図「会合位置と距離」「地球と火星の会合」から太陽・地球・月の軌道と、前回の「大接近」は2003年8月27日だったことがわかります。

■『星空の不思議 136のQ&A:国立天文台渡部潤一博士が答えます(ニュートンムック)』(ニュートンプレス 2010.3)【440/136N】

p.50「夏の火星はなぜ明るいのだろうか?」に「大接近」と「小接近」について、太陽・地球・火星の軌道、会合周期は約2年2か月、大接近の周期は平均15.8年、5回の大接近で整数になるため79年ごとに同じ条件の大接近が起こるが、2003年の大接近は1924年8月22日以来、また研究によると紀元前5万5537年以来的大接近、これを上まわるのは2287年、等の解説があります。全頁カラー。

■『藤井旭の天文年鑑 2018年版:スターウォッチング完全ガイド』(藤井旭/著 誠文堂新光社 2017.12)【J440/2N】こども資料室

p.104の図「火星と地球の動き」によると「小望遠鏡でも表面の模様がよくわかる」とのことです。

その他、中央図書館では「星座」「太陽系」「星の写真の撮り方」などについての本や、カラー写真満載の見ていだけでも楽しい本、こども資料室にも大人が十分に楽しめる本を多数所蔵しています。お気に入りの本を片手に、夏の夜空を楽しんでみてください。

参考) ※2018/6/22 現在

●「火星大接近2018」国立天文台

<https://www.nao.ac.jp/astro/feature/mars2018/>

●「火星大接近」大阪市立科学館

<http://www.sci-museum.jp/staff/>

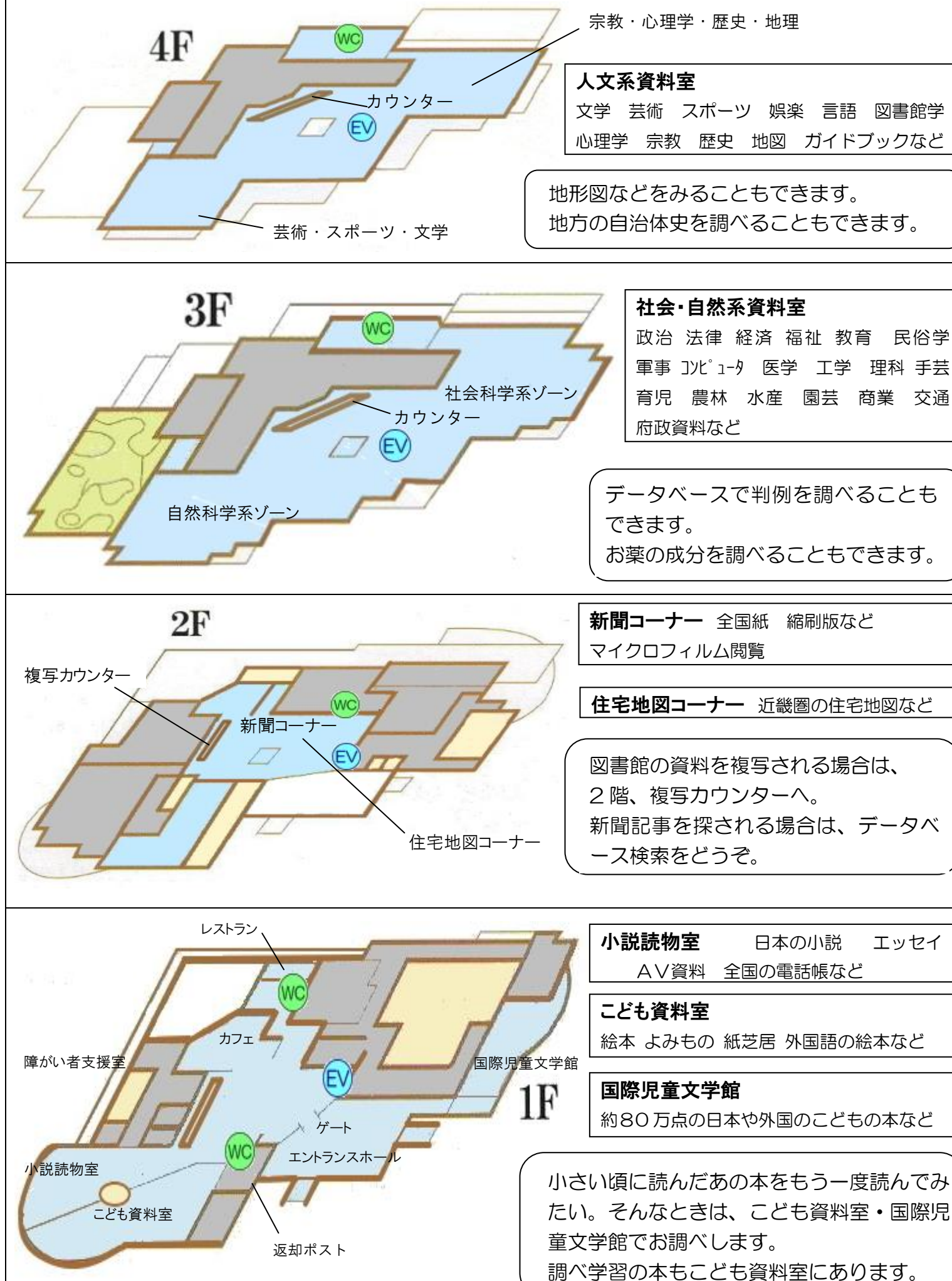
図書館では7月27日(金)に夏休み天体観望会「夏の夜空を眺めよう~火星大接近~」を開催します。

開場 18:30 開演 19:00 終演 21:00

参加費: 500円(申込時) 会場: 大会議室

主催: 大阪府立中央図書館指定管理者 長谷工・大阪共立・TRCグループ

館内レファレンス案内図



あなたの知りたいこと 調べたいこと

お手伝いします!

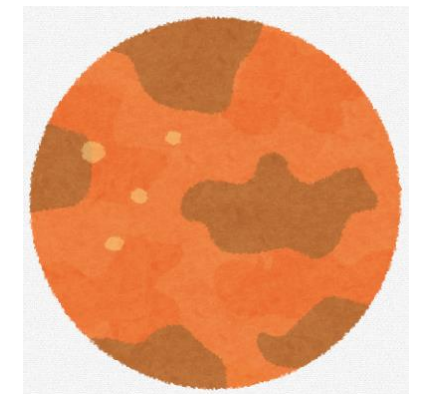
レファレンスサービスのご案内

暮らしの中の疑問から、
仕事に必要な調査まで、
図書館の資料やデータを使って
調べ物や資料探しのお手伝いをする、
それが**レファレンスサービス**です。

例えば・・・

トピック

「火星が地球に大接近」について知りたい。



詳細は裏面で!

〒577-0011 東大阪市荒本北 1-2-1

☎06-6745-0170 FAX 06-6745-0262

大阪府立中央図書館

作成日 2018年7月13日